

株式投資には、「バリュー」や「グロース」、「小型」や「大型」など様々な観点があります。今回はその中でも、「クオリティ」の観点に着目したクオリティ株式投資の魅力についてご紹介します。

### 収益力の強さや財務の健全さなどに着目

クオリティ株式とは、一般に収益力が強く、財務も健全な銘柄を指します。収益力の強さは、利益率や資本効率の高さなどを意味し、ROE(自己資本利益率)やROA(総資産利益率)などの指標によって評価されます。また、財務の健全さは、負債の少なさなどを意味し、負債比率などの指標によって評価されます。さらに、クオリティ株式を定義する上では、安定的な利益成長を続けているかという観点なども考慮されます。

### 下値抵抗に加え、高い運用効率も期待される

クオリティ株式は、その収益力や財務面における優位性などを背景に、長期で相対的に良好なパフォーマンスを示してきたこと(下図)に加え、株式相場下落局面において下値抵抗力を発揮する傾向もみられました。実際に、1999~2024年における年間騰落率(右上図)を確認すると、世界株式が大きく下落した局面で、概ね下落を抑制できたことがわかります。

また、世界株式に対して、リターンが大きい一方、リスクは小さい傾向にあることから、運用効率という

観点からも非常に魅力的な投資対象だといえます(下図)。

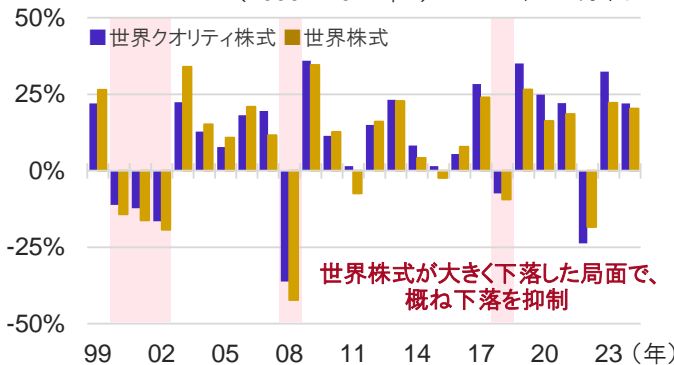
### 株価バリュエーションが高い傾向も

なお、クオリティ株式は、その収益力の強さや財務の健全さなどが投資家に評価されやすいことから、株価バリュエーションが高い傾向にあります。また、銘柄選定が難しい場合もあることなどから、投資に際しては、リスク管理の観点から銘柄の分散を行なうのはもちろんのこと、投資信託の活用などにより、銘柄選定をプロに任せるなどの工夫も重要と考えられます。

### 下落局面で下値抵抗力が発揮される傾向

<各指数の年間騰落率>

(1999~2024年\*) \*2024年は11月末まで



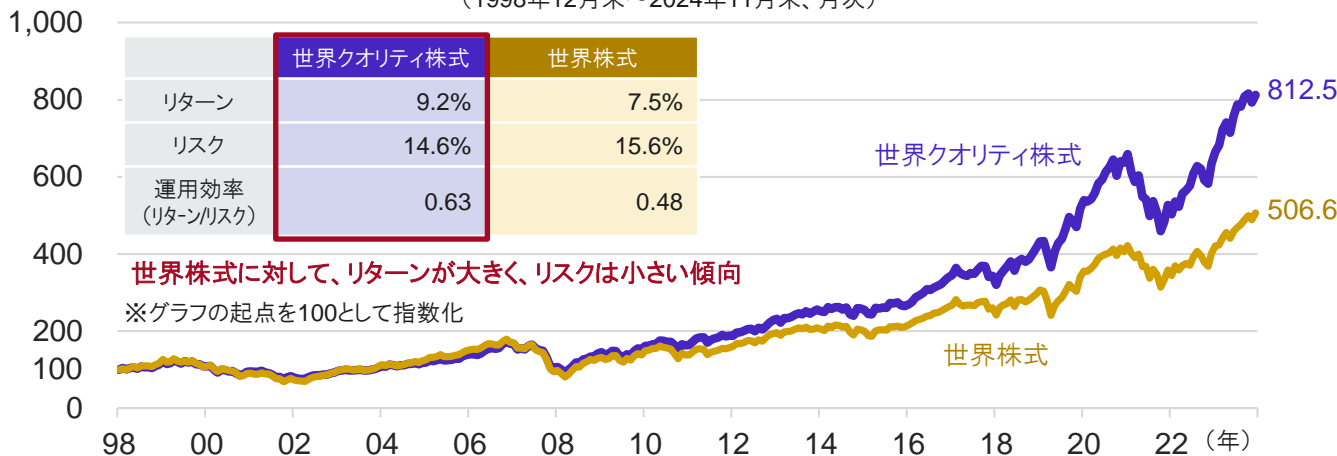
世界株式が大きく下落した局面で、概ね下落を抑制

※ 世界クオリティ株式: MSCI ACワールドクオリティ指数、世界株式: MSCI ACワールド指数(いずれも税引後配当込み、米ドルベース)

### 長期で相対的に良好なパフォーマンスを示してきたクオリティ株式

<各指数の推移およびリターンやリスク>

(1998年12月末~2024年11月末、月次)



世界株式に対して、リターンが大きく、リスクは小さい傾向

※グラフの起点を100として指数化

※ 上記は、右上図で使用した各指数を用いています。

※ リターンは月次騰落率の平均、リスクは月次騰落率の標準偏差をそれぞれ年率換算

※ 当資料に示す各指数の著作権等の知的財産権その他一切の権利は、各指数の算出元または公表元に帰属します。

● 上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

<ご留意いただきたい点>

■この資料は具体的な商品をご説明するものではないため詳細を記載しておりませんが、元本保証のないリスク性商品のご購入やご売却、保有にあたっては、手数料等をご負担いただきます。■リスク性商品には、各種相場環境等の変動により、投資した資産の価値が投資元本を割り込むなどのリスクがあります。■リスク性商品を中途解約する場合は、ご購入時の条件が適用されず不利益となる場合があります。■くわしくは、三井住友銀行本支店等の各商品の説明書等を必ずご覧ください。



株式会社三井住友銀行  
登録金融機関 関東財務局長(登金)第54号  
加入協会/日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会